おかげさまで40th

物流ニッポン

2008年（平成20年）
5|29（木）

発行/月曜日・木曜日　第3136号
購読料/半か年32,130円（月額5,355円、税込）
©物流ニッポン新聞社 2008（昭和44年4月1日第三種郵便物認可）

SPCの仕組み紹介

共同事業、物流施設を見学

倉青協

【石井麻里】倉庫業青年経営者協議会（鈴木篤会長）は二十三日、横浜市で企業交流会を開き、会員と社員八十人が出席した。ダイワコーポレーション（曽根功社長、東京都品川区）とコバヤシ・エンタープライズ（小林一三社長、横浜市西区）の共同事業である特別目的会社（SPC）方式を採用した物流施設を見学、SPCの仕組みを学んだ。

小林義和・企業交流委員長（コバヤシ・エンタープライズ）と曽根和光氏（ダイワコーポレーション）が引率し、横浜市中区の「ダイワコーポレーション新山下営業所」（コバヤシ・エンタープライズ貯木場センター）を訪問。共同事業の経緯と施設を紹介した。

曽根氏は、ファンド活用の背景として、土地取得に関して横浜市港湾局の入札方式により価格競争となり投資額が大きくなったことを説明。延べ床面積五万六千八百平方㍍、三階建ての倉庫について「欠点は高さ制限。港の見える丘公園からの眺望権により、地上二十㍍までしか建てられない」と話した。

ダイワコーポレーション経営本部の平野孝一部長が「倉庫会社主導によるSPC方式」をテーマに講演。SPCのメリットとして①オフバランス化②事業主体の資金バランスを圧迫しない③倒産隔離が施されている――などを挙げた。

SPCの一種であるTMK（特定目的会社）に自社も出資することで、十年間の定期建物賃貸借契約期間終了後、優先買い取り交渉権を得られる仕組みで、「当初、金融機関からの借り入れも検討したが、最初の数年間はキャッシュフローが悪化する。（倉庫を）買うのを十年先延ばしした」（曽根氏）と説明。

SPC方式の注意点では「社会的信用力のある建設会社の起用」も指摘された。三菱UFJ証券の担当者から、SPC方式のデメリットであるコストと手間として、資金調達のアレンジメントフィーや弁護士、会計士など専門家へのフィー、物件の調査コストがかかることも紹介された。

今回の企業交流会は、発足以来の大人数が出席し、会員二社の新しい倉庫建設・運営の仕組みへの関心の高さがうかがえた。小林委員長は参加した社員に「企業交流会という舞台を会社が用意した。どう踊るかはみなさん次第。なぜ、会社があなたを選んだか考えて、有意義な交流をしてほしい」と呼び掛けた。

ダイワコーポレーションの新山下営業所を訪問